



日本で初めて土器が作られた時代だドウ。
縄で文様を描いた土器を「縄文土器」といって、時代の名前の由来にもなっているドウ。



じょうもん じ だい 縄文時代

紀元前1万1千年～紀元前300年

時代の概要

氷河が溶け温暖な気候となったことで、木の実などの植物が多く採れるようになり、海面が上昇したことで、魚や貝が獲れやすくなりました。人々は弓矢や銚もりを使って狩りや漁を行い、土器を用いて食べ物を保管・調理するようになりました。

宝塚市域では、この頃の土器や住居は見つかりませんが、狩猟で使われる槍や矢の先につける石器の有茎尖頭器ゆうけいせんとうきや石鏃せきぞくが出土しています。

市内の主な遺跡

にがわ ゆうけいせんとうきしゅつどち こうばこしんでん いせき あくらみなみいせき
仁川有茎尖頭器出土地・香合新田遺跡・安倉南遺跡

仁川高丸の仁川有茎尖頭器出土地と北部の香合新田遺跡からは、縄文時代草創期の有茎尖頭器が採集されています。

安倉南遺跡では縄文時代中期の石鏃矢尻が出土しており、宝塚市域で狩りをしていたことが伺える貴重な資料です。



仁川有茎尖頭器出土地の有茎尖頭器



香合新田遺跡の有茎尖頭器

どうさかくんメモ

市内で出土した石器は、いずれもサヌカイト（讃岐石）と呼ばれる石材を鹿の骨や石で加工して、鋭利な刃をつけたものだドウ。近畿地方でも広範囲にわたって出土しているドウ。

